

8-3

介護記録のシステム化情報の活用による個別サービスの改善

情報の共有、提供、標準化、ISOによるサービスの向上

介護記録の電子化

個別サービスの改善

特別養護老人ホーム・長湊園 ながぶちえん

介護長・市川光男

看護長・小貫のり子

東京都青梅市長湊5-1421-14

介護副主任・五十嵐光哉、川村勝

TEL：0428-23-6776

E-mail：sekizen@poppy.ocn.ne.jp

FAX：0428-23-6794

URL:http://www.nagabuchien.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

昭和60年特養開設、定員100名、ISO9001を2004年に取得。
ホームページによる情報の提供に努めている。今年、居宅介護支援事業所開設予定

〈取り組んだ課題〉

- 1) 介護記録が手書きで、情報の共有が出来ない。
- 2) 日誌・観察記録・ケース記録など、その日の記録から、個人別経時記録へ転記が必要
- 3) ケアプラン検討により多くの情報を活用できるようにする。

〈具体的な取り組み〉

- 1) パソコンの技術を身につける。(10名パソコン教室に通った、1名10日間、費用1名10万円)
10名が中心となって、他の職員へパソコン操作を指導。
- 2) ソフトの選定、他施設のシステム見学
- 3) 記録様式は、それまでの長湊園様式を基本に開発し、長湊園、専用システムにすることに決定
- 4) 記録様式の検討決定を3ヶ月行った
- 5) システムを1年かけて開発、一つ一つのシステムを手書きから、パソコンに時間をかけて段階的に切り替えていった。

〈活動の成果と評価〉

- 1) 各部署、担当が、ネットワークを組み、利用者状態の把握、個人介護記録の閲覧が容易になり、利用者を包括的に援助、介護できるようになった。
- 2) 日勤、夜勤等の申し送り指示、結果の報告がパソコン上で、継続的に行うことが出来るようになった。
- 3) サービス担当者会議等、計画作成検討により多くの利用者ニーズ、介護情報を正確に活用できるようになった。
- 4) 事故などの集計分析を、委員会で活用できる。
- 5) 個人記録を家族に送付できるようになった。送付記録は、ケアプラン、モニタリング、栄養ケア計画、ケース記録、介護観察記録(食事、入浴、整容、水分、排泄、バイタル)、食事箋、リハビリ、マッサージ、事故報告など含む
- 6) 記録の充実で業務の標準化への意識が高まった
- 7) より多くの職員が業務の改善に参加でき、検討委員会で積極的に見直しの機会を作れるようになった。

〈今後の課題〉

- 1) お客様に満足を提供できる情報記録、開示システムを志す
- 2) 個々の職員が記録を広範囲に活用できるよう指導していく。

〈参考資料など〉